

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2774500967
法人名	特定非営利活動法人 たんぽぽの会
事業所名	グループホームやすらぎのさと
所在地	泉佐野市南中岡本60 (電話) 072-465-1158
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年7月25日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	14人	常勤	2人, 非常勤 12人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	有(円) ②			
保証金の有無 (入居一時金含む)	① (100,000円)	有りの場合 償却の有無	③ / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり (1ヶ月) 20,000円			

(4) 利用者の概要 (平成19年6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	8名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	79歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人栄公会 佐野記念病院、福田病院、かつふじ歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「住み慣れた地域でこれまでの生活を継続し自分らしく暮らす」がNPO法人たんぽぽの会の運営方針です。ケアの質を守り、低家賃でも快適に暮らせるホームとしてスタートしました。日々、運営の努力や工夫をしています。また、地域との交流も積極的に行い、外部評価も真摯に受けとめ、ケアの質向上に向けて取り組んでいます。この3年間職員の交代はほとんどありません。広い敷地にある民家を改造したホームは、今までの生活の延長上にあり、自然な暮らしを提供しています。縁側に面した庭から、桜の木、梅の木、ふきのとうや落など山菜がとれ、四季折々の移り変わりを眺めることができます。また、庭で南瓜や玉ねぎ、ピーマンなど利用者とともに栽培し、収穫し食材に利用しています。玄関、勝手口も日中は開錠しており自由に出入りできます。利用者の笑顔や会話から、利用者の視点に立つての各取り組みを確認することができました。運営推進会議も定期的開催し、町会や行政の出席者による率直な討議がなされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の調査では介護計画の利用者、家族の意見の反映に関しては、遠方でなかなか訪問できない家族の意見の聞き取りができていませんでした。その後、家族への便りの発行やFAXや電話での連絡など積極的に行い改善されています。まだ、意見を十分引き出すまでは至りませんが、現状でのアプローチを継続し、今後の関係づくりを期待します。食事の改善は見られました。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価項目を全員に配布し、各自自己評価をするとともに、ホーム全体として質の向上に取り組んでいます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 昨年6月より、2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。利用者の家族、介護保険課、家族、町会長の出席で意見交換を行っています。積極的に家族や地域の意見を聞き、ホームの役割を示しながら、サービス向上に向けて取り組んでいます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 開設後職員の交代がほとんどなく、利用者、家族との信頼関係が構築されています。玄関の開錠など、その人らしい利用者の自由な暮らしを支える視点を持ち工夫や努力を重ねています。今後も、利用者や家族とともに地域で生活の継続ができるような取り組みが期待されます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者も地域の一員として生活しています。地域のやぐら祭りや相撲大会、盆踊りなどの行事の参加や外食、買い物など日常的に地域と密着した生活をしています。近隣の方から、野菜やお花を頂き、日々の生活に彩りを添えています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をホーム独自に見直し分かりやすく明文化しています。安心した暮らしや、その人らしい暮らしを支えることを柱にし「㊦さしく、㊦てきな笑顔で接し、その人㊦しい暮らしを支え、㊦持ちの通うやすらぎのさと」をスローガンにホーム内に掲示しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は、管理者と職員で会議を重ね作り上げています。ミーティング等を通じ具体的な実践に向け取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域住民の一人として町内会に加入しています。地域のお祭りや盆踊りなどの行事に積極的に参加しています。保育園児の訪問もあります。日ごろよりホーム周囲の溝掃除など行い近隣との付き合いを大切にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を踏まえ、具体的に改善に取り組んできました。管理者は外部評価の意義を説明し、自己評価票を全員に配布し職員全員で取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年6月より、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し記録に残しています。利用者、家族、介護保険課、町会長等が出席し、家族や地域の意見を聞き、ホームの役割を示しながら、サービス向上に向けて取り組んでいます。	○	運営推進会議を進めるためのルールを定めた規定、規約を作成することが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議への参加や、日頃から市の担当職員にサービス向上に向けて相談しています。事故についても、記録に残すとともに市担当者に迅速に報告しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に便りを発行し、家族に行事や日々の生活等、利用者の状況を報告しています。利用者の写真はアルバムに整理し、家族来訪時に見てもらっています。利用者の預り金管理のための、金銭出納帳もあり、家族の確認印を取得しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のほとんどが市内の方で、月に何度か家族の訪問があります。訪問時には、必ず家族の意向を聴取するようにしています。遠方で訪問が困難な利用者の家族にはファックスや電話での連絡を取り、意見を聞くよう努めています。また運営推進会議に参加してもらい意見や要望を聞いています。出された意見は、ミーティングで話し合っています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後3年間で退職者は1名です。家族や利用者や職員は、馴染みの関係が構築されています。勤務体制の工夫や職場環境などの努力の賜物といえるのではないのでしょうか。退職した職員も、折に触れ訪問しています。新規職員については、家族が訪問時に紹介をしています。新しい職員は週に3回のパート職員で、利用者家族と会う機会は少ないですが、掲示板にプロフィールを貼るなどして、紹介してはいかがでしょうか。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や感染症、救急法を含めた年6回以上の研修を実施しています。できるだけ勤務内で研修参加ができるように体制を整えています。外部研修にもできるだけ参加し、ミーティング等で、伝達講習をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪府下対象の大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、他のグループホームと相互研修を実施しています。市内にある事業所との交流は今後の課題となっています。また今後は地域ネットワークの構築も目指しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどが、開設時からの利用です。職員が入居前の家庭環境を把握し、ホームの生活に自然に馴染めるよう働きかけています。利用者、家族の見学はいつでも可能です。また、大阪認知症高齢者グループホーム協議会の方式を使ってホーム入居前の生活歴を利用者家族も交えて把握し、整理しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の食事作りや掃除、庭から取れる四季折々の山菜の調理法、職員が利用者から学ぶことも多くともに生活を楽しんでいます。毎年、春には庭の梅の木が実をつけます。利用者とともに、梅干、ジャム作りを楽しんでいます。庭の草取りなど家の管理も一緒に行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意見が書面で記載されています。家族の訪問も多く、意向を聴取すると共に、日々の利用者との触れ合いの中で、利用者一人ひとりの思いや、希望をしっかりと受け止めています。お墓参りや買い物など、利用者の意向に合わせた取り組みをしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	大阪認知症高齢者グループホーム協議会のアセスメントシートで過去の生活歴を把握し、それに基づき介護計画書を作成し、利用者、家族の了承も得ています。今後、少しずつ利用者の機能低下も考えられるため、利用者の思いや家族の意向を把握し、生活の視点から支援の継続を期待します。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを実施し、利用者一人ひとりのできることできないことを把握し情報を共有しています。また、日々のケアにも生かしています。ケアカンファレンスを通じ、モニタリングも定期的実施し、それに基づく6ヶ月に1回の計画書の見直しがあります。訪問の少ない家族に対しては、便り様子を伝えていますが、計画作成についての意見も積極的に聞き取ることを期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	NPO法人たんぽぽの会として、 街かどデイハウスや有償ボラン ティアを運営しています。利用 者、家族の要望に応じて通院 や外食などは法人の車を利用 し、柔軟な対応をしています。 地域自治会にも、友愛訪問の 希望者がいれば対応する旨を 伝えています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	日頃から医師との情報交換を 含めて、夜間でも相談できる 医療機関を確保しています。 近隣の歯科医との連携もあり 必要に応じて受診しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	現在はターミナル期の状況の 利用者はいませんが、ホーム として終末期の対応方針を定 めています。利用者、家族の 意向を把握した上で、現状ホ ームとしてできる範囲について 示しています。 今後も、利用者、家族の意向 を汲み取りながら、ホームと しての終末期ケアに向けての 支援を期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議で個人情報保護について話し合いを行っています。また、事務所内にも文書での掲示をしています。利用者に対する職員の声かけや職員同士の会話など、プライバシーに対する配慮を行っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調査員が訪問した際は、利用者と職員でお墓参りに出かけていました。また、食事の際の柔軟な対処や利用者同士の会話やテレビ鑑賞等、自由に時間を過しています。職員も利用者に合わせて柔軟に支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は週に2回の配送で購入し、生鮮食品は、利用者と共に近くのスーパーへ買い物に行っています。庭で採れた蒔や梅、ピーマンや南瓜なども食卓に上ります。泉佐野漁港で陸揚げされた魚がその日の食材になることもあります。朝食は豊富なメニューになっており、また調査員訪問時は手作り餃子が昼食の一品でした。食事は楽しみとともに一日の大切な活動となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則2日に1回の入浴ですが、希望に合わせた対応をしています。1時間くらい入浴する利用者もいますが、体調を確認しながら、利用者のペースに合わせた支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業をしていた利用者は畑仕事や庭の手入れ、野菜作りを得意としています。また、縫い物、調理など、利用者一人ひとりの生活歴を把握し、楽しめるように支援しています。食事作りや片付けなどもそれぞれの役割が決まっています。港に近い土地柄、魚を上手にさばく利用者もいます。入居以降の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの楽しみなども職員は把握しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に戸外には自由に出かけられます。勝手口の出入りは自由で、庭、近隣に出かけることもあります。近隣のスーパーや外食にも出かけています。外出を好まない利用者にも、近隣の医療施設の協力を得て、リハビリ目的で最低でも週1回は外出しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開錠しています。勝手口からも自由に入出りでき、スロープも設置しているので、車椅子でも駐車場から庭、近隣へと出かけられます。徘徊が見られる利用者については、不穏傾向を把握し、見守りや玄関のブザーで察知しながらも、自由な暮らしを提供しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災時のマニュアル及び連絡網も整備しています。消防訓練も年2回実施し消火器の利用や避難訓練に利用者も参加しています。	○	今後は災害に備えて、非常食品や備品を準備することが求められます。また年に1回は備品の点検が求められます。今後も職員の日常的な防災意識の向上を期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の豊富な食事メニューから、バランスの摂れた食事の提供を行っています。摂取カロリー等およその食事内容を把握しているものを記録で残し、家族や利用者の方に伝えてはいかがでしょうか。食事量は記録しており、水分も一日を通じて確保できるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本家屋を改造したホームで、玄関、欄間、仏間など昔ながらの生活の雰囲気を感じさせます。安全面や自立を考慮し手摺や段差解消など、暮らしやすく改造しています。南向きの広い縁側から眺められる庭には、松・梅・桜の木や土筆・ふきのとうなどの山菜や畑のピーマン、南瓜・冬瓜など、四季折々に芽吹き、自然を感じることができます。玄関や台所にも花を飾り、五感で感じることを大切に自然空間を提供しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い家屋（1階に和・洋9室）を改造した居室は、ふすまや障子、欄間、縁側があり居心地良い空間となっています。利用者一人ひとりの部屋は、使い慣れたたんすやちゃぶ台、仏壇や神棚等もあり、生活感のある住み慣れた家の雰囲気があります。		